

テーマ：家計調査（2008年11月）
発表日：2008年12月26日（金）
～10-12月期のGDPベース個人消費は前期比マイナスの見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

(%)

		実質消費支出 (二人以上世帯)		実質可処分所得 (勤労者世帯)		消費性向 (勤労者世帯)	
		前年比	前期比	前年比	前期比	季調値	前年差
08	1-3月期	0.6	0.7	▲1.7	▲1.7	74.2	3.0
	4-6月期	▲2.6	▲2.6	▲3.2	▲3.2	74.7	2.5
	7-9月期	▲2.3	▲2.2	▲1.6	▲1.6	73.7	▲0.8
07	11月	▲0.6	▲0.5	▲2.5	▲1.1	73.7	0.8
	12月	2.2	1.6	▲3.5	1.4	73.9	2.5
08	1月	3.6	2.5	▲2.8	▲2.6	77.6	5.1
	2月	0.0	▲2.9	▲1.1	3.0	72.8	1.8
	3月	▲1.6	▲2.2	▲0.9	0.1	72.3	0.7
	4月	▲2.7	▲0.7	▲5.5	▲6.0	76.4	4.4
	5月	▲3.2	▲0.9	0.2	6.1	72.6	▲1.0
	6月	▲1.8	1.5	▲4.3	▲2.8	75.2	2.4
	7月	▲0.5	0.9	▲3.9	▲0.7	75.7	2.6
	8月	▲4.0	▲3.4	2.2	4.9	71.0	▲4.4
	9月	▲2.3	1.7	▲3.3	▲4.8	74.3	▲0.1
	10月	▲3.8	▲1.4	0.3	3.7	69.6	▲5.2
	11月	▲0.5	3.1	▲0.9	▲2.3	75.2	1.8

(出所) 総務省「家計調査報告」

○ 10-12月期のGDPベース個人消費は前期比マイナスの見込み

11月の家計調査実質消費支出（二人以上世帯）は前年比▲0.5%（10月同▲3.2%）とコンセンサス（▲3.6%、レンジ：▲4.4%～▲2.5%）を上回った。季節調整済み実質消費指数の前月比も+3.1%と増加している。また、GDP個人消費の需要側推計値作成に際して控除される品目を取り除き、世帯人員を調整したベースで計算しても前年比▲0.3%（10月同▲1.8%）とマイナス幅を縮小させている。

もっともこれは、10月に大きく落ち込んだ反動の面も大きいとみられ、家計調査（品目控除・世帯人員調整後）を季節調整値（当社試算）でみると、10-11月の平均は7-9月期を▲0.1%下回っている。ほぼ横ばいにとどまっており、消費の基調が上向いているわけではない。また、11月は土日、祝日が昨年より3日多かったことが押し上げている面もあるとみられ、11月の結果は若干割り引いて見る必要もあるかもしれない。

出荷額などの供給側統計は、家計調査と異なって11月は大幅に悪化していることにも注意が必要である。需要側、供給側を総合してみた場合には、11月の個人消費はむしろ悪化していると考えられる。個人消費の基調はやはり弱いといいだろう。現時点で公表されている材料から判断すると、10-12月期のGDPベース個人消費は供給側統計の悪化を主因として前期比マイナスになる可能性が高い。

外需が急激に落ち込んでいることに加え、設備投資の減少ペースが加速する見込みであるなか、内需の柱の一つである個人消費に下支え役が期待できないことは大きなマイナス材料である。08年10-12月期の実質GDPは極めて大きな落ち込みになることが予想される。

○先行きも弱含み

先行きについても不透明感は強い。今後、景気が一段と落ち込むことを受けて、雇用環境の悪化や賃金の下落が予想されるなど、消費を取り巻く環境は厳しい。また、こうした景気悪化に関する報道等を受けて、景気・雇用不安が家計に広がることから、消費意欲が今後一段と落ち込んでくる可能性が高い。原油価格の下落等を受けて消費者物価指数の上昇率が明確に鈍化し、物価面からの実質所得下押し圧力が和らぐことや、年度末に行われる予定の定額給付金の配布というプラス材料もあるため、個人消費が今後底割れする事態は避けられると考えるが、基調としては弱含み方向とみて良いだろう。

